

そよかぜ 7月園便り

令和3年7月1日（木）

西東京市立そよかぜ保育園

先月の園だよりで『砂・水・泥んこ遊び』について毎月「掘り下げてお伝えする」と予告しましたので、お約束通りお伝えしたいと思います。

そよかぜ名物『泥んこ遊び』

コロナ禍になり保育参加ができない状況が続く、本当ならお父さん・お母さんたちにも子どもたちと一緒に思い切り泥んこ遊びを楽しんでもらいたいのですが、まだそれが叶わず…

なるべくホームページやクラス前の掲示などで写真を使って子どもたちの生き生きとした表情をお届けするようにしていますが、泥んこ遊びの時の子どもたちの心から楽しんでいる様子、伝わっているでしょうか。

サラサラの砂に水を含ませると形が変化していきます。水の分量によっても**形状**や**固さ**が変わり、**感触**も変わります。これが面白い！

大きな山を作るにはサラサラのままでは崩れてしまう。そこで水をかけて固めていきます。もちろん水が多すぎても崩れてしまうので、どのくらいの固さなら登っても崩れないのか、その固さにするには水をどのくらい運んでくれば良いのか。一人で運ぶのは大変だけど、友だちと力を合わせれば重たいバケツも運べます。水をかけたら手を使ってペタペタとしっかり地固め。これで登っても崩れない山の完成です。

さて、この中に子どもたちの生活に欠かせない大切な要素がたくさん入っているということに気づかれたでしょうか。

まず水を加えることで変化する砂は、子どもたちにとってはとても興味をそそる**面白い素材**です。もちろん水そのものも混ぜる物によって変化する最高の素材ですよ。

その**感触**を目で見て触って楽しむことが遊びを膨らませていくことに繋がっていきます。中には砂に触ることがイヤというお子さんもいますが、無理強いせず、まずは小さめの容器に水を入れて側に置いてあげることから始めていくと、水なら抵抗なく触れるお子さんが多いので、そこから徐々に砂や泥んこにも興味が広がり、慣れていきます。

変化する様子を楽しんだら、次は「あとどのくらい水をかけたら皆が登れる山になるだろう」と考えて遊びを発展させていきます。この**考える**ことも遊びの中で育まれる大切な力です。

そして友だち同士で「それじゃあ水が多すぎるよ」「もう少し持ってきて」などと声をかけ合い、力を合わせて水を運ぶ。なんと素晴らしいこの協同作業！**友達と一緒に何かを成し遂げる**ということも大切に重ねていきたい経験ですね。

ここで大事にしたいのは、砂と水を混ぜて形を変化させることも、どうすれば崩れない山ができるかを考えながら水をかけることも、山（もしくは川）を作るために重たい水を友だちと一緒に運ぶことも、全て**子どもたちの主体的な活動**であるということです。

「砂・水・泥んこ遊び」。このような思いで日々遊んでおります。お洗濯、何卒よろしくお願ひ致します。

クラス通信

梅雨の合間の晴れた日には、おもいっきり外遊びを楽しんでいる子どもたち。少しずつ暑くなる日々が夏の訪れを感じさせてくれます。

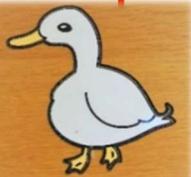
先日、巧技台の斜面を使ってテラスから園庭へと出て遊びました。初めてということもあり、「何してるんだろう？」とじっと様子を見ていたり、自分からはなかなか降り進められなかったりもしましたが、大人が声を掛け一緒に外に出て砂の感触を楽しんだり、水に触れて冷たさを確かめたりしていくうちに、笑顔が溢れていましたよ♪



ひよこ

先月は6月とは思えないぐらい暑い日が続き、園庭では水遊びや泥んこ遊びを楽しみましたよ。バケツやカップを手にとって水道へ向かい、勢いよく水を流す子ども達。そこへカップを出すと水しぶきが大きく上がり、自分にもかかるのですが、それがとても面白いようで、繰り返し遊んでいました！また、砂場に穴を掘って水を溜めると、足湯のように足をいれたり、数人で並びながら気持ちよさそうな笑顔を見せていました。

今年のあひる組は、更に暑くなったら、水遊びがもっともっと楽しくなりそうです！



あひる

晴れ間で暑い日には、園庭での砂水遊びが盛り上がったすずめ組。始めは水がかかるのを避けていた子もいましたが、一度触れてみると一変！「楽しい！！」とペットボトルやおままごとのお皿に水を入れては大人にかけたり、ホースから出る水のトンネルを“せーの”でくぐってみたり。砂場では、たらいに水をたっぷり入れて「一緒に運ぼう」と大人と運ぶのを繰り返し…そのうちお友達同士で協力し、楽しさを一緒に感じられました。砂場に川が出来ると、リズム遊びの“かけっこ”のメロディーに合わせて走り、全身泥だらけになって楽しんでいますよ！

今月も外遊びや巧技台遊びを繰り返していき、お友達や大人と一緒に“楽しい”を共有していきます！



すずめ

散歩の帰り道、ポツン…ポツン…と感じ始め、大人が「雨が降ってきた！急ごう！！」と慌てているのをよそに、

「あめ あめあめ ざっざざあ♪ びしょびしょぬれるよざっざざあ♪

いそいで いそいで かえろー あーめだよ♪」

と大好きな『ざあざああめ』を歌いだす子どもたち。ひばりさんにとっては、雨に濡れるのも楽しいようです。

外に出られない日にはテラスで、寒天を千切って水を入れてかき混ぜ、「かき氷やさんみたい」「私イチゴがいい」「メロンも好き」「レモンもいいよ」「(絵本の) ばばーちゃんのアイスパーティーみたいでたのしいねー」と感触遊びを満喫しています！

今月は泥んこ遊びで身体全体を使って遊んでいきます。



ひばり

最近のつばめ組は、近くの公園へ出かけて氷鬼やバナナ鬼などを楽しんでいます、先月初めて“靴鬼”で遊びました。



遊び方①タッチされたら鬼に靴を渡す

②鬼は靴を守りながらすばやく反応してタッチ

③取られたお友達の靴はスキを狙って走って取り返す

とても白熱します！鬼も逃げる人も、**お友達同士で協力**しながら楽しんでいますよ。

また、先月ははやぶさ組さんと一緒にプラネタリウムやじゃがいも掘り等少し遠くまで歩いて出かけました。「年長さんってこんなにたくさん歩いているんだね」と話しながら、つばめ組も最後まで歩いていましたよ。

もうすぐ夏本番！プール遊びも取り入れながら、思い切り体を動かして遊んでいきます。

先月は年長行事や、年長ならではの製作も多く、この枠では話きれません（園のHPなどに写真付きでアップしますのでご覧ください）が、その中でも七夕製作の『天の川』についてお話しします。玄関から日に日に伸びている“天の川”ですが、まず、障子紙を染めています。※実は三色（青、水色、黒みがかった青） 破かないようにそっと開いて干し、乾いてから畳んでから上下を交互にひっくり返しながらかって切っていました。

キラキラしたお星さまも、4分の1サイズの折り紙を折って切って作り、糸を結んでいくのも全部自分たちでやっています。この文章を読んでから改めて見ていただくと、みんなの頑張りがより伝わるとおもいます！！



HP 情報

毎週金曜日に更新しています。

最近では“お散歩先紹介”“年長ならではの取り組み”などを掲載していますが、今月は七夕の会や夏祭りの様子もアップしていく予定ですので是非ご覧ください。



じゃがいも掘りの様子も HP にて

7月 園行事

7日（水）七夕の会
9日（金）歯科検診
14日（水）布団乾燥

16日（金）夏祭り
20日（火）誕生会
21日（水）避難訓練

ホタル 鑑賞

たつの子保育園のお泊り保育。夕食を食べ、夜の散歩。バスに乗り「どこへ行くの???'「秘密!」暗がりの中 辺りから蛙の大合唱。眼を凝らしながら、歩を進めていくと 「ポ!」 と明かりが見え、フワッと飛んでいます。「何かいた!」「なに? なに?」優雅に飛び交うホタルの群れ 貴重な時間でした。

はじめ と おわり いないいない ばあー の 深イイ話

朝 「ママがいい・・・」と泣き、なかなか別れられない我が子。

大急ぎで仕事を終え、迎えに来ると、今度は「保育園がいい!」と一向に帰ろうとしない・・・
 保育園ではよく見かける光景ですが、保護者にとっても、保育者にとってもつらい試練の時間ですね。
 「今」に生きている子どもにとって、次に向かうには、いかに納得し、気持ちを切り替えられるかという「チカラ」が要ります。又「次はこんなことをする」と次の行為を見通す「チカラ」も必要です。
 『ママがいいー』から「面白そう!やりたい!」と気持ちが動き、「ああ面白かった!おしまい。」と満足を繰り返す中で、徐々にその「チカラ」は育っていきます。
 「おはよう おやすみ」「いただきます ごちそうさま」「行ってきます ただいま」・・・
 様々な事象には「はじまり」と「おわり」があり、その都度 気持ちを切り替え、身体を置き換え、立て直しています。ある時は無意識に ある時は気持ちを奮い立たせて、事に向き合います。

「いない いない」顔を覆っていた手が消え 「ばー」目の前に現れた大好きなお母さん

不安から安心に代わる瞬間です。繰り返し遊ぶ中で 近未来を見通し 「ばー」に期待を膨らませ、『待つ』楽しさを満喫し、他者への信頼と安心感を培う大切な遊び。信頼関係を築く土台と言っても過言ではありません。「今」を満足し「ああ面白かった。また今度ね」と次につなげましょう。

期待を込めて 大人も一緒に いない いない ばー

職員のつぶやき

第2子を出産、育休を終え4月より復帰しました。久しぶりの家庭と仕事の両立に、慌ただしい日々です。帰宅時間が遅くなり ”早くご飯にしなきゃ“ “早く寝かせてあげたい”と焦ってしまうことも。先日も21時には布団に入りたいという私の思いとは裏腹に、のんびりな子ども。やっと布団に入ったのに、なかなか寝付けません。私の頭の中には終わらせたい家事の事で頭がいっぱい。だんだんイライラしてきて怒ってしまいました。泣く子どもを見て「日中保育園で頑張っていたのに・・・家でも泣かせてしまって・・・こんな母親になりたくないのに・・・」と 心から反省。

そこから考え方を変えました。寝る時間が多少遅くなっても、ふれ合いの時間を大切にしようと思ったのです。いつもは1冊にしている絵本も少し多く、トランプをしたり、膝に座ってゆっくり話をしたり...私の心も満たされ、子どももすんなり寝るようになりました。早く寝かせるのは子どもの為と思っていたけれど、子どもが求めていたのはふれ合いの時間(心の満足)だったんだと改めて気づかされました。心に少しでも余裕が持て利用に食洗器・お掃除ロボットにお世話になっています。多少高くても時間を買ったと思えば安い物(?笑い)。ワーキングマザーの同志の皆さま 毎日お疲れ様です。頑張り過ぎず適度に手と力を抜いて...助けてもらえるところには頼って、子どもと沢山笑いましょ。

西東京市立みどり保育園 佐藤まな実